

2012年度事業報告書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

1. 全体の流れ

A 国内

① 民際の事務局体制

募金部長と総務部長と会計兼事業担当の計3名の退職があったが、新事務局長、事業担当2名、計3名の新規採用を行う。支障なく事業が推進されたばかりでなく、より良い職場環境が醸成され、大幅な事業の変革に着手することとなった。

② 基盤整備

リーマンショックや東日本大震災が民際の募金減少に影響を与えたのは事実だが、同時に民際の協力者の年代層は郵便振込に馴染みの深い世代で、高齢化し、減少ぎみであるのも事実である。ソーシャル・メディア等を使用した若い世代の取り込みに後れをとっていたこともあり、システム・エンジニアの参画を得て、基盤整備を実施、2013年度からの本格的な募金活動への体制を整えた。

③ 寄付方法

銀行自動振込とクレジットカード決済（自動課金）の促進を決定し、2013年6月にWeb-Siteが始動するための準備を行った。

④ 公益法人化

公益法人協会の協力を得て、2013年中に申請するための準備を進めている。

B 海外

① 各国の事務所を統括するEDF-Internationalに秋尾が理事長に就任し、EDF-ThaiのSunphet氏が専務理事となり、各国の代表が理事を構成する制度を確立。

② カンボジアとラオスの事務局長が秋尾に代わって、それぞれの事業所の代表になり、同時にEDF-Internationalの理事に就任した。

③ 2012年度にベトナムとミャンマーにおいて、パイロット事業として、一年目の奨学金の提供を実施し、基盤整備を図った。それにより2013年度から本格的な募金活動の実施が可能となった。ベトナムはホーチミン市に事務所を開設、ミャンマーはヤンゴン市に予定。

④ タイにおいて各国の代表及びICT担当が初めて一堂に会し、戦略会議を開催。全事業及び募金額の精査を行い、米国ドルを軸とした新価格を設定。2013年度6月に奨学金事業、12月に全ての事業に関して、世界中から募金することが可能な制度を構築することとなった。

⑤ 25年間変更のなかった奨学金額を、現状の教育費に沿って変更することを決定し、各国で調査を開始、月々12ドルが適正であることになり、年額144ドルとなった。

2. 全事業の概要

- ① 奨学金事業 (5ヶ国)
- ② 校舎建設事業 (ラオス)
- ③ 図書事業 (ラオス)
- ④ 教師修士留学事業 (ラオス)
- ⑤ 少数民族教師養成事業 (ラオス)
- ⑥ Book to School 事業 (ラオス)
- ⑦ 給食普及事業 (ラオス)
- ⑧ OSOP 事業 (タイ)
- ⑨ 旅行プロジェクト (タイ・ラオス)
- ⑩ 国内活動支援事業 (日本)
- ⑪ プレゼント事業 (タイ・ラオス)
- ⑫ タイ王国奨学金事業 (タイ)
- ⑬ 自然災害支援 (タイ)
- ⑭ 学校教材セット (タイ・ラオス)
- ⑮ 管理寄付 (日本)

3. 個々の事業報告

① 奨学金事業

実施国：タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ベトナム

目的：タイ（中学1～3年生及び一部高校生）、ラオス（小学3～5年生及び中学1～4年生）、カンボジア（小学4～6年生、中学1年～3年）、ミャンマー（中学1～4年）、ベトナム（中学1～4年）の貧困家庭の子どもたちに対して奨学金支援を行い、万人に基礎教育の機会を与えることを目的とする。

実績：タイ奨学生 : 5,113名

ラオス奨学生 : 4,697名

カンボジア奨学生 : 1,525名

ミャンマー奨学生 : 32名

ベトナム奨学生 : 35名

ニュースレター 季刊「ダルニー通信」 発行部数 6,000部×4回

受益者：支援生徒数 11,402名

② 校舎建設事業

実施国：ラオス

目的：校舎の量的不足、質的劣悪が指摘されているラオスにて校舎を建設し、より多くの子どもたちが安心して質の高い教育を受けられるように環境を整備する。

実績：a. サラワン県ナラオン村、6部屋タイプ1棟（5教室+教員室等）

2011年3月着工 2012年7月完成

- b. サワラン県ナタンドン村、6 部屋タイプ 1 棟（5 教室+教員室等）
2011 年 11 月着工 2012 年 7 月完成
- c. サラワン県ナノン村、6 部屋タイプ 1 棟（5 教室+教員室等）
2011 年 11 月着工 2012 年 7 月完成
- d. サワナケート県ボンサワン村、6 部屋タイプ 1 棟（5 教室+教員室等）
2011 年 10 月着工 2012 年 7 月完成
- e. カムアン県ターケーク高校、
2 階建校舎 1 棟（5 教室、2 実験室、1 コンピューター室）
2011 年 10 月着工 2012 年 7 月完成
- f. サワナケート県ヒンテーク村（進行中）
- g. サワナケート県ドンカンクー村（進行中）

受益者：完成校の生徒約 2738 人、教員約 120 人、村人多数

③ 図書事業

実施国：ラオス

目的：教科書以外に本の入手が困難なラオスの学校の子どもたちに、図書セットの寄贈によって、本に接する機会を提供し、子どもたちの想像力や思考力を育み、あわせて国語能力の向上を図る。

実績：低学年から高学年まで対応した絵本、エッセイ、文学作品など様々なジャンルの書籍を選定し 1 ユニット 150 冊入の木製箱を図書館のない学校へ提供した。前年に引き続き Lao-Library1000 キャンペーンを展開し、本年度は 220 個の図書セットを寄贈することができた。また、新潟の学生団体（ラオススクールプロジェクト）によりサワナケート県に図書室が建設された。

受益者：主に 4 県（カムアン、サワナケート、サラワン、セーコーン）に所在の図書館のない小・中学校、約 220 校の児童たち。

④ 教師修士留学事業

実施国：ラオス

目的：全国公募から選抜されたラオス人高校教師らをタイ国立コーンケン大学に修士留学させ、国の教育の質的向上を担う人材を育成する。将来的にはラオスの教育機関で教科書や教師用指導要領の改善に携わり、それらの有効活用を以って、ラオス全土での均一化された国際水準の教育の実現を図る。

実績：現在、タイ・コーンケン大学修士課程に留学中の奨学生は 10 名

[内訳] 6 期生（2010 年入学）：3 名

7 期生（2011 年入学）：4 名

8 期生（2013 年入学）：4 名

*既に 16 名が修士号を取得して卒業。教科書改善事業の準備のため、8 期生からは数学教育専攻のみを募集している。

受益者：修士課程修了後、ラオスの教育機関で国の教育の質的向上に携わるため受益者は多数

⑤ 少数民族教師養成事業

実施国：ラオス

目的：少数民族の教師志望の学生が教師免許を取得し出身地域の学校で教えられよう奨学金を提供することによって、少数民族地域の基礎教育の質の向上を図る。

実績：サワンナケート県サワンナケート教師養成短期大学「中学校教師養成コース」、並びにチャンパサック県パクセ教師養成短期大学「中学校教師養成コース奨学生」にて1年間履修

受益者：5名

⑥ Book to School 事業

実施国：ラオス

目的：多くのラオス人子どもは自分の教科書を持っていないため、予習・復習ができない。教科書がない子どもたちに教科書を提供して子どもたちの学歴向上を図る。

実績：セーコーン県の4郡に全科目教科書800セット提供

受益者：小学校32校の生徒800人

⑦ 給食普及事業

実施国：ラオス

目的：公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団から委託を受け、ラオスにおける学校給食制度構築を目指す。ラオスの地方の小・中学校で先生・村人が、自分たちの力で学校給食が可能になる事例、自立促進型のモデルを確立し、それを普及すること。

実績：3年間の総合計画に基づき2012年9月より週1回の給食がスタートした。モデル校として、カムアン県にあるポンサイ小学校、ハドシェンジー小・中学校の3校で実施された。それに伴い、農業活動や保健衛生事業も始まり、2013年3月まで市場で販売された農産物の収益は3校の合計で21,454円であった。また、ランチとして使用した農産物の3校の合計は市場価格で20,873円となった。

受益者：生徒数635名（ポンサイ小学校241名、ハドシェンジー小学校171名、ハドシェンジー中学校223名）

⑧ OSOP 事業 (One School One Project =1校1事業)

実施国：タイ

目的：タイの中学校で、生徒たちが母校の校庭を利用して近隣の農家などから地域の資源の活用や伝統的な技術を学び、かつその収益や生産物を食材に利用して無料給

食を実施して生徒の健康増進を図る。

実績：タイ 5 校（カーラシン 2 校、ローイエット 1 校、スリン 1 校、ヤソートン 1 校）

受益者：実施校生徒数約 1,000 名

収益：100 万円

⑨ 旅行プロジェクト

(ア) 主な旅行事業

実施国：タイ、ラオス

目的：支援者が奨学金や学校建設などの支援をしている地域を訪問し、その現状を理解するとともに村泊などを通して相互交流を図る。

実績：

a. ラオス国際交流の旅（HIS 主催）

9 月 ラオス 参加者 19 名 訪問県：カムアン県

3 月 ラオス 参加者 13 名 訪問県：カムアン県

b. 委託旅行

神宮ライオンズ 2 月 ラオス 参加者 8 名 カムアン県

SWITCH 旅行 2 月 カンボジア 参加者 24 名 コンポンチュナン県

c. 個人旅行

10 月 ラオス 1 名 訪問県：カムアン県

12 月 タイ 1 名 訪問県：アムナットチャルーン県

1 月 タイ 6 名 株式会社サンキュー

訪問県：ナコンラーチャシーマー県

2 月 ラオス 2 名 訪問県：カムアン・チャンパサク県

(イ) その他の旅行事業

富士通ユニティ労働組合

2002 年に組合創立 10 周年を記念してラオスに校舎を 2 校建設し、以来、隔年で校舎が立つ村を訪問し、子どもたちや村人と交流。今年創立 20 周年を迎え 11 月に委員長以下 17 名で 2 校を訪問。1 泊ずつした。

⑩ 国内活動支援事業

ドナー連絡会活性化事業

目的：全国にある地域連絡会の連携を深め、ダルニー奨学金の普及を図る。

実績：第 12 回全国ドナー連絡会を長野県佐久市にて開催。

11 月 3（土）、4（日）、佐久グランドホテルにおいて 33 名が参加し、以下の活動を実施。

【11 月 3 日】第 1 部：参加した連絡会（新潟、佐久、静岡、甲府、福岡）世話人がそれぞれの活動を報告。夕食後に懇親会を行った。新潟から参加したベトナムから

の留学生がアオザイ姿で民謡を披露した。

【11月4日】前日に引き続き活動報告会。この日は民際センターの活動を報告した。

⑪ プレゼント事業

実施国：タイ・ラオス

目的：タイ・ラオスの貧しい農村部のほとんどの奨学生は、今までプレゼントをもらったことがない。日本からのプレゼントが生涯忘れられない思い出となるだろうという考えから、ダルニー奨学金には含まれない、学習教材をプレゼントしてさらに奨学生を応援する。また、ドナーが支援中の奨学生へプレゼントセットを贈り、ドナーと奨学生との交流を目的とする。

実績：本年度よりラオスで当事業を開始し、初年度は151セットのプレゼントが奨学生へ贈呈された。タイは、前年に引き続き進級・進学時期、クリスマス・お正月時期の年2回の申込時期を設けており、57セットのプレゼントが奨学生へ贈られた。

受益者：ラオス：奨学生151名、タイ：奨学生57名

⑫ タイ王国奨学金事業（委託）

実施国：タイ

目的：バンコク、チェンマイで他法人が実施している奨学金事業の管理・運営サポートを行う。成績が良いが貧しいバンコク、チェンマイの学生に奨学金を提供することで勉学の継続を促す。

実績：バンコク中学生9名、高校生17名、チェンマイ中学生6名、高校生63名、ブリラム高校生1名、サムットプラカン高校生1名、プーケット高校生1名の合計98名に奨学金を受給した。6月に奨学金授与式を実施。また、11月に現地を訪問し、状況調査のためバンコク、チェンマイの学校や奨学生の自宅を訪問した。

受益者：奨学生数約98名

⑬ 自然災害支援（タイ）

実施国：タイ

2012年1月1日（日）～2月29日（水）

【タイ洪水奨学金5000キャンペーン】 緊急リサイクル支援キャンペーン

⑭ 学校教材セット（タイ・ラオス）

実施国：タイ・ラオス

目的：タイやラオスのほとんどの農村部の学校では、基本的な教材やスポーツ用具が不足している。そのため、先生は学習の楽しさを伝える授業づくりが難しく、学ぶ楽しさを十分に感じられずに授業を受けている子どもたちも少なくない。その不足している品物を贈り、子どもたちに学ぶ楽しさを知って欲しいという

のが目的である。

実績：本年度よりラオスで当事業を開始し、初年度は50セットのプレゼントが学校へ贈呈された。タイは、前年に引き続き進級・進学時期、クリスマス・お正月時期の年2回の申込時期を設けており、8セットのプレゼントが学校へ贈られた。

受益者：ラオス：中学校約50校、タイ：小・中学校8校

⑮ 管理寄付 (日本)

公益法人化への準備を開始

ICTにより膨大な奨学金等の入金データの会計ソフトへの自動取り込みを確立

入金システムの多様化に対応

以上